

## 将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025」の平成30年度実績評価について

## 【総合評価】

## ○自己点検（平成30年度）

平成30年度は、当院の将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025」の2年目となり、「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」というビジョンの達成のために更なる取組を進めました。

ボトムアップによる病院改革・多職種連携の仕組みとして実施しているワークショップでの議論を基に、平成30年度はキーフレーズとして「一人ひとりが広報マン」「病院コンシェルジュ、全員コンシェルジュ」「ぬくもり空間」「コストの見える化」を掲げ重点的に取り組み、「市民健康講座」の積極的な実施、外来待合へのピアノの設置などのほか、各部署で取組を実施しました。また、開業医との連携強化を目指し、前年度に続き2回目のクロスミーティング（開業医との連携の会）を開催したほか、平塚市が経営主体となる市民病院として開設されてから、平成30年10月1日で50周年となることを記念して情報発信や患者・市民向けのイベントを実施しました。

更に、平成30年度は、2年に1度の診療報酬改定がありましたが、質の高い医療体制を整えたことなどによりDPC係数が上昇するなど増収につながる要因があったほか、「重症度、医療・看護必要度」は算定ルールが変更になり、従来の「7:1入院基本料」に相当する「急性期一般入院料1」の施設基準を満たすために、当院の算定方法の場合30%以上が必要となりましたが、引き続き施設基準を維持することができており、これまでの取組の成果が出てきていると考えています。

将来構想のKPIでは、高度急性期・急性期医療を担う病院として、「断らない救急」を実践することで「救急搬送患者受入数」は、前年度の実績を超え、過去最高となっており、これに伴い「救急車搬送患者入院患者数」も増加しました。また、常勤麻酔科医が不足する中で非常勤麻酔科医を確保し、予定手術以外の緊急手術もスムーズに対応可能とすることなどにより、「手術件数」「全身麻酔件数」も前年度を超える実績となりました。

また、公立病院として、市の施策も踏まえ、政策的医療である小児・周産期医療などを担っています。平成30年度は平塚市における出生数が減少している中で、当院においても「分娩件数」が減少したものの、前年度に続き、平塚・中郡地域での産科・小児科の二次救急当番を当院のみで担っており、「小児科の救急受診患者受入数」「産科の救急受診患者受入数」が増加していることや、当院が平塚・中郡地域で唯一分娩ができる病院であることから、役割を果たすことができたと考えています。

財務状況を見ても医業収益の増加などにより経常収支が黒字となったほか、「医業収支比率」も前年度の実績より改善していますが、看護師の確保による運用病床数の拡大や救急医、常勤麻酔科医をはじめとする医師の確保などにより収益の更なる向上を目指す一方で、価格交渉や効率の良い働き方などにより経費削減を図る必要があります。また、情報発信やPRなど患者を確保する取組もあわせて行うことで経営改善に取り組んでまいります。

前年度の実績と比べると増加・改善しているKPIが多いものの目標達成のペースとなっていないものもあります。今後も職員一丸となって取組を進めることで、目標達成を目指します。

(参考)

項目		H28	H29	H30	項目		H28	H29	H30	項目		H28	H29	H30
重症度、医療・看護必要度 ※H30目標値：(27.0)	上半期(%)	29.5	29.2	(34.0)	紹介率 ※H30目標値：72.0	上半期(%)	62.3	68.5	-	逆紹介率 ※H30目標値：90.0	上半期(%)	84.1	89.4	93.0
	年間(%)	29.4	28.8	(33.6)		年間(%)	62.3	67.3	71.4		年間(%)	86.6	92.6	98.4
通院不要的退院率 ※H30目標値：40	上半期(%)	26.1	43.5	47.8	救急搬送患者受入数 ※H30目標値：8,000	上半期(件)	3,813	3,933	4,412	救急車搬送患者入院患者数 ※H30目標値：2,650 ※()内は救急搬送患者受入数に対する率	上半期(件)	1,159(30.4)	1,174(29.8)	1,299(29.4)
	年間(%)	28.9	46.7	48.3		年間(件)	7,854	8,047	9,123		年間(件)	2,420(30.8)	2,441(30.3)	2,725(29.9)
手術件数（中央手術室） ※H30目標値：4,000	上半期(件)	1,866	1,850	1,938	全身麻酔件数 ※H30目標値：2,700	上半期(件)	1,232	1,213	1,342	分娩件数（子どもの数） ※H30目標値：520	上半期(件)	222	256	236
	年間(件)	3,696	3,630	3,937		年間(件)	2,484	2,473	2,764		年間(件)	453	486	447
小児科の救急受診患者受入数 ※H30目標値：2,140	上半期(件)	1,621	1,524	1,379	産科の救急受診患者受入数 ※H30目標値：300	上半期(件)	125	164	182	医業収支比率 ※H30目標値：89.4	上半期(%)	93.3	93.8	96.7
	年間(件)	3,181	2,737	2,756		年間(件)	277	326	332		年間(%)	86.3	83.1	90.9

## ○外部点検（平塚市病院運営審議会）

## ○市長からの意見・指示

【平成32年（2020年）度の診療機能及び指標等】

○診療機能

内容	具体的施策	平成30年度	
		評価・検証（病院長）	評価・検証（病院事業管理者）
地域の中核病院としての高度医療・急性期医療を担います	「地域医療支援病院」として、高度医療・急性期医療の分野を担い、地域の医療機関と連携して、地域完結型医療の中で主要な役割を果たしていきます。	前年度と比して、手術件数、診療単価、DPC係数が上昇しており、高度急性期医療への特化の成果があらわれています。	地域完結型医療の中で、中核病院として高度医療・急性期医療に特化しており、手術件数、診療単価の増加などに繋がっています。今後も地域医療機関との連携を強化します。
救急医療体制を強化します	救命救急センターの指定を目指し、「断らない救急」を実践するとともに、救急搬送患者をより効率的に受け入れるよう体制を強化します。	救急応需率は著しく高く、救急搬送件数は9,000件を超え過去最高となり、更に救急ワークステーション事業も実績をあげています。救急医の充実が課題です。	引き続き救急医が不足している中で、救命救急センターとして「断らない救急」を実践しています。救急搬送件数の増加と同時に高い応需率を維持しており、実績が上がっています。
がん医療の充実に努めます	（1）胃・大腸・肺・肝臓・乳がんの5大がんをはじめ、これまで力を入れてきた泌尿器科・婦人科領域のがんについても、高い診療レベルを維持します。 （2）手術、化学療法、放射線治療とそれらの集学的治療に加えて、緩和ケアにも力を入れます。	肺がんの手術の再開、放射線治療の件数増とがん診療は充実してきています。がん診療戦略室による更なる進化が期待されます。	がん診療は当院の得意とする分野であり、緩和ケアも充実しています。呼吸器外科医の就任により肺がん手術が再開できたほか、高精度放射線治療装置を利用する症例も増加しており、がん医療の更なる充実に努めます。
地域の小児・周産期医療の中心を担います	（1）公立病院として、地域で求められる小児・周産期の高度医療、救急医療に対応できる診療体制の維持に努めます。 （2）妊娠・出産から、新生児・乳幼児・小児期を一貫した体制で診療します。	地域の小児・周産期救急医療を一手に引き受けており、更なる集約化、小児科医の確保が大きな課題です。	医師不足や不採算部門のために他院が小児・周産期医療を縮小していく中で24時間365日高度医療・救急医療に対応しており、政策的医療を担う役割を果たすことができます。更に充実させるためには医師の増員が必要です。
地域包括ケアシステムにおいて急性期の病院としての役割を担います	急性期の病院として、急性期病態への対応や、地域の医療機関等への教育指導、情報共有に努めます。	地域医療連携のためのシステムである"クロスピッチ"は在宅の往診医のサポートにも役立っています。多機関による連携を更に図っていく必要があります。	地域連携を推進し、逆紹介により外来患者の診療を開業医などをお願いすることで、急性期患者中心の診療を行っており、地域包括ケアシステムの中で高度医療・急性期医療を行う病院として役割を果たしています。
災害拠点病院としての機能を充実します	（1）自然災害に強い病院づくりを目指します。 （2）災害時に多発する重篤患者の受け入れや、災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣します。	井戸、災害用トイレなど当院のもつ設備の有用性を職員に積極的に紹介してきました。地震以外の水害などの対応も検討していく必要があります。	当院は、大災害に対応できる設備を持っており、災害時に対応出来るよう訓練を実施しているほか、地域との連携にも取り組んでいます。災害拠点病院として、今後も災害時の病院機能維持のために取り組みます。

○指標等

項目	内容	平成32年（2020年）度目標値	平成30年度		
			H30実績	評価・検証（病院長）	評価・検証（病院事業管理者）
外来	初診時保険外併用療養費	約4,000円（消費税抜）	H30/10/1から5,000円（税抜）	外来縮小体制は、診療単価の予想以上の上昇と稼働額増という結果につながりました。引き続き、通院不要的退院率のアップを軸に外来縮小の取組を進めていきます。	外来を縮小するよう努力しており、外来患者数が減少しているものの、外来診療単価が上昇し、収益増になり、取組の成果が出ています。今後は、外来縮小を外来経費の削減に繋げてまいります。また、平成30年10月から初診時保険外併用療養費を予定通り改定することができました。
	受診体制	一部（紹介率又は診療単価が低い）の診療科は「完全紹介制」とする	精神科が完全紹介制。 H30/11/1から呼吸器内科が再度完全紹介制。		
	1日平均患者数	約800人	846.2人		
入院	診療単価	約70,000円	66,953円	入院診療単価は順調に増加しています。手術件数を増やすことを第一に考えて引き続き取り組んでいきます。今後の方向性として、運用病床数の拡大、集中治療室増、救命救急センター病床増、新生児特定集中治療室管理料算定開始、周産期母子医療センターの認定やがん診療連携拠点病院の指定を考えていく必要があります。	救命救急入院料1と総合入院体制加算2の算定など質の高い医療体制を整えたことなどにより、診療単価が上昇しました。また、7月から稼働病床を増やしましたが、高い病床稼働率を保持しており、運用病床数の拡大に向けた取組が必要です。
	一般病棟（特定入院料算定棟を除く）の医療看護必要度	（約28%）	（33.6%）		
	特定入院料の算定（施設基準）	（1）救命救急入院料	H29/7/1から救命救急入院料1算定開始		
		（2）ハイケアユニット入院医療管理料	ハイケアユニット入院医療管理料1		
（3）小児入院医療管理料		H29/9/1から小児入院医療管理料3			
総合入院体制加算2の算定	平成29年（2017年）10月から算定開始	H29/8/1から算定開始			
その他	救急医療体制	二次救急輪番制と三次救急（救命救急センター運営による）	H29/4/1から二次救急輪番制と三次救急	救命救急センターになったこともあり、救急搬送件数が伸びていることから、地域のニーズがあることが明らかです。このニーズをきちんと受け止めるためには、上記の機能強化と医療職・事務職の人員増が必要です。	「断らない救急」の実践により救急搬送件数が増加しているほか、非常勤麻酔科医の確保や呼吸器外科医の就任などにより手術件数を増加させることができました。しかし、救急医や常勤麻酔科医をはじめとして医師不足が引き続きの課題であり、更なる取組が必要です。
	救急搬送件数	約8,200件	9,123件		
	手術件数	約4,400件	3,937件		
	全身麻酔件数	約3,000件	2,764件		
	紹介率	約80%	71.4%		
逆紹介率	約100%	98.4%			

Ⅰ 医療の質と効率の視点

評価 B

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

「救急搬送患者受入数」は、「断らない救急」を実践する中で9,000件を超え、過去最高となり、目標値を大きく上回りました。また、地域医療連携を推進しており、「逆紹介率」「通院不要的退院率」の向上などにつながっています。救急搬送患者の受入れや、地域連携による重症患者確保で「急性期一般入院料1」の施設基準を満たす「重症度、医療・看護必要度」の維持及び「手術件数」「全身麻酔件数」の増加につながったと考えます。今後も、医師の確保、運用病床数の拡大や情報発信により目標達成を目指します。

(ア) 重症度、医療・看護必要度（一般病棟）

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
重症度、医療・看護必要度 （一般病棟）	目標値	26.5	(27.0)	(27.5)	(28.0)	7対1入院基本料の施設基準を満たす重症度、医療・看護必要度を維持します。	「重症度、医療・看護必要度」の算定は、平成30年度診療報酬改定により算定ルールが変更になり、従来の「7:1入院基本料」に相当する「急性期一般入院料1」の施設基準を満たすためには、当院の算定方法の場合30%以上である必要があります。平成30年度の実績は33.6%で、毎月30%以上であり、施設基準を維持しました。「重症度、医療・看護必要度」については、看護師長が病名や治療方法の見直しを行い、適正な必要度判定を行っています。また、地域医療機関との連携による在院日数短縮や手術件数の増加に取り組むことで、更なる「重症度、医療・看護必要度」の向上に結び付くものと考えています。	
	上半期実績	29.2	(34.0)					
	年間実績	28.8	(33.6)					
H28実績：29.4	評価	B	(A)	—	—			

※重症度、医療・看護必要度（一般病棟）=（基準を満たす患者の延べ数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））/（入院患者延数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））×100

※平成30年度診療報酬改定により、平成30年度から算定ルールが変更になっています。

(イ) 救急患者受入数

（産科及び小児科（周産期）を含む。）

単位：件

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
救急搬送患者受入数	目標値	7,800	8,000	8,100	8,200	救命救急センターを目指し、地域ニーズに応える診療体制を提供します。	「断らない救急」を実践する中で、平成30年度は、救急搬送患者数が前年度と比べ1,000件以上増加し、9,000件を超え、過去最高となりました。また、救急搬送された患者のうち、入院となった患者は、前年度と比べると284件増加し、救急搬送から入院する患者の新規入院患者に占める割合が増加し、重症患者確保につながりました。平成30年度は、「救急搬送患者受入数」「救急車搬送患者入院患者数」がいずれも目標を達成しましたが、平成31年度は救急医の数が減少しました。今後も、救急医を充実し、搬送件数の急激な増加に対応するとともに、救急隊との更なる連携、患者や市民からの信頼の確保により、重症患者の更なる確保を目指します。	
	上半期実績	3,933	4,412					
	年間実績	8,047	9,123					
H28実績：7,854	評価	B	B	—	—			
救急車搬送患者入院患者数	目標値	2,500	2,650	2,750	2,850			
	上半期実績	1,174	1,299					
	年間実績	2,441	2,725					
H28実績：2,420	評価	C	B	—	—			

(ウ) 通院不要的退院率

（総合入院体制加算の施設基準による）

単位：%

【関係部門】		診療部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
通院不要的退院率	目標値	40	40	40	40	地域医療支援病院として、地域医療連携を強化し、総合入院体制加算の施設基準を維持します。	通院不要的退院率は、地域の他の医療機関との連携を図る指標の一つであり、総合入院体制加算2では40%以上であることが求められています。診療情報提供書の作成が院内の各医師に浸透してきており、毎月40%を超えています。今後も、地域医療連携を積極的に推進します。	
	上半期実績	43.5	47.8					
	年間実績	46.7	48.3					
H28実績：28.9	評価	B	A	—	—			

※通院不要的退院率= {（退院時診療情報提供書作成患者の数）+（転帰が治癒の退院患者（当該又は他の医療機関で外来受診の不要な患者）の数）} / 総退院患者数（外来化学療法又は外来放射線療法に係る専門外来・HIV等に係る専門外来・死亡を除く）×100

(エ) 手術件数

単位：件

【関係部門】		診療部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
手術件数 （中央手術室）	目標値	3,800	4,000	4,200	4,400	重症患者の診療を中心に行う病院として、手術室の有効利用を図り、手術件数の増加に努めます。	当院は、高度急性期及び急性期を担う病院として、「手術」「難しい検査や処置」などの高質で高度な医療を行っていくこととしています。平成30年度は、前年度と比べ手術件数が307件、全身麻酔件数が291件増加し、「全身麻酔件数」は目標を達成しました。平成30年度は、常勤の麻酔科医が減少したものの、非常勤麻酔科医を確保し、緊急の手術にも対応できる体制を整えるなど手術増加に向けた取組を行いました。診療科別では、正規職員が不在となった耳鼻咽喉科（手術件数126件減、全身麻酔件数122件減）や医師が減少した脳神経外科（32件減、40件減）などで件数が減少したものの、脊椎専門の医師が確保できた整形外科（151件増、152件増）、医師の増員があった外科（外科、消化器外科、血管外科、救急外科）（132件増、116件増）や正規職員が確保できた呼吸器外科（70件増、70件増）などで前年度と比べ増加しました。	
	上半期実績	1,850	1,938					
	年間実績	3,630	3,937					
H28実績：3,696	評価	C	C	—	—			
全身麻酔件数	目標値	2,550	2,700	2,850	3,000			
	上半期実績	1,213	1,342					
	年間実績	2,473	2,764					
H28実績：2,484	評価	C	B	—	—			

(オ) 紹介率・逆紹介率

単位：%

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
紹介率	目標値	68.0	72.0	76.0	80.0	地域医療支援病院として、紹介及び逆紹介を積極的に行います。	当院は、公立病院として、また、「地域医療支援病院」として、国が進める医療の機能分化を推進しており、地域の医療機関との連携は不可欠です。平成30年度は、医師による開業医訪問に力を入れるとともに、5月10日には、前年度に引き続き2回目のクロスミーティング（開業医との連携の会）を開催しました。前年度と比べ紹介率は上昇したものの、目標は達成できませんでした。一方で逆紹介率は上昇し、目標を達成しました。今後も、引き続き地域医療機関との連携を進めてまいります。	
	上半期実績	68.5	-					
	年間実績	67.3	71.4					
H28実績：62.3	評価	C	C	—	—			
逆紹介率	目標値	85.0	90.0	95.0	100.0			
	上半期実績	89.4	93.0					
	年間実績	92.6	98.4					
H28実績：86.6	評価	B	B	—	—			

※紹介率=紹介患者の数(初診に限る)/{(初診患者の数(初診料算定患者))-救急自動車により搬入された患者数(初診に限る)}-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} ×100

※逆紹介率=逆紹介患者の数(診療情報提供料算定患者数)/{(初診患者の数(初診料算定患者))-救急自動車により搬入された患者数(初診に限る)}-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))} ×100

II 患者満足の視点

評価 B

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

平塚・中郡地域での産科・小児科の二次救急当番を当院のみで担っており、救急受診患者受入数が増加していることや、当院が平塚・中郡地域で唯一分娩ができる病院であることから、政策的医療を担う病院としての役割を果たすことができたと考えます。しかし、平塚市や多くの周辺自治体における出生数が減少している中で、当院においても「分娩件数」が減少しました。

また、患者に対する情報発信については、患者満足の向上のほか、当院をPRし、認知度を上げていくためにも必要です。そのような中で、今年度からは「市民健康講座」の積極的な実施などに取り組んでおり、多くの患者・市民に御参加いただき、高い評価をいただいております。今後も、患者に限らず市民・社会に対する情報発信を戦略的に進めるとともに、職員一人一人が広報マンであるとの意識の下、院内での情報共有の徹底と各職員の積極的な情報収集により引き続き情報発信に努めます。

(ア) 産科・小児科（周産期）の救急受診患者受入数 単位：件

【関係部門】		診療部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
産科	目標値	290	300	305	315	子どもを産み育てやすい環境づくりを積極的に進めていきます。	平成30年度も平成29年度に引き続き、平塚・中郡地域における産科、小児科の二次救急当番は当院のみで担い、地域住民の皆さんの安心に寄与しました。平成30年度の救急受診患者受入数については、産科が前年度と比べ6件増、小児科は19件増となりました。今後も、休日・夜間急患診療所や地域の医療機関と適切な役割分担を図りつつ、市民の安心・安全に寄与してまいります。	
	上半期実績	164	182					
	年間実績	326	332					
H28実績：277	評価	B	B	—	—			
小児科	目標値	2,080	2,140	2,200	2,270			
	上半期実績	1,524	1,379					
	年間実績	2,737	2,756					
H28実績：3,181	評価	A	A	—	—			

(イ) 分娩件数 単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
分娩件数 (子どもの数)	目標値	490	520	550	580	二次医療圏内で唯一産科入院ができる病院として、多様な出産に対応可能な体制を整備します。	平成30年度の分娩件数は前年度と比べ39件減少しました。平塚市や多くの周辺自治体での出生者数の減少などが大きな要因と考えられます。そのような中で当院では、入院患者に配布する退院後の子育て支援に係る冊子の見直しや妊産婦食の見直しなど、質の向上に努めました。今後も、引き続き質の向上に努め、「子どもを産み育てやすい環境づくり」を進めてまいります。	
	上半期実績	256	236					
	年間実績	486	447					
H28実績：453	評価	C	C	—	—			

(ウ) 情報発信件数 単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
市民向け出張講座 開催数 (出前講座など)	目標値	11	12	13	15	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。平成30年1月から経営企画課に広報の専従職員を配置し、平成30年度は、院内での「市民健康講座」の積極的な実施、ホームページでの院内活動の発信、病院広報誌「Smile!」のレイアウト変更に伴う情報量の増加などに取り組みました。「市民健康講座」は、院内会議室で当院医師や管理栄養士などが講演を行うもので、平成30年度は9回開催し、前年度目標を達成することができなかった「市民向け院内講座」の回数増加につながっています。なお、「病院広報誌『Smile!』配布数」の実績が目標値を大幅に下回りましたが、これは市民病院開設50周年に当たった配布方針に変更があったためです。今後も、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていきたいと考えています。	
	上半期実績	-	-					
	年間実績	16	16					
H28実績：13	評価	A	A	—	—			
市民向け院内講座 開催数	目標値	55	56	57	60			
	上半期実績	-	-					
	年間実績	33	42					
H28実績：13	評価	D	C	—	—			
医療機関向け公開 講座開催数	目標値	16	17	18	20			
	上半期実績	-	-					
	年間実績	19	25					
H28実績：13	評価	B	A	—	—			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45			
	上半期実績	-	-					
	年間実績	80	71					
H28実績：13	評価	S	S	—	—			
ホームページアク セス数（月平均）	目標値	19,000	20,000	22,000	23,000			
	上半期実績	19,646	21,883					
	年間実績	18,789	21,746					
H28実績：19,200	評価	C	B	—	—			
病院広報誌 「Smile!」配布数	目標値	8,000	116,500	6,000	5,000			
	上半期実績	2,000	4,000					
	年間実績	8,000	8,000					
H28実績：8,000	評価	B	D	—	—			

III 経営・財務の視点

(ア) 経営改善に係るもの

評価	B
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
<p>材料費、給与費などの医業費用が増加したものの、医業収益の増加が上回ったことから「医業収支比率」は前年度より改善し、目標を達成するとともに、経常収支では黒字となり、「累計現金預金額」は前年度末を上回りました。医業収益の増加は、質の高い医療体制を整えたことによるDPC係数の上昇、入院延患者数・手術件数の増加、7月からの病床25床再稼働など職員一丸となって取組を進めてきた成果です。</p> <p>良質な医療の提供には、経営の安定化が不可欠であり、今後も医師の確保・運用病床数の拡大などによる収入確保や価格交渉などによる経費削減に取り組みます。</p>						

a 医業収支比率 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医業収支比率	目標値	83.3	89.4	90.6	92.7	健全経営を実施するため、医業収支比率の向上に努めます。	<p>医業収支比率の改善には、医業収益の増加、医業費用の削減又は増加の抑制が必要です。平成30年度は、前年度と比べ医業収益、医業費用ともに増加しましたが、医業収益の増加が大きかったことから、医業収支比率は7.8ポイント改善しました。医業収益の増加は、質の高い医療体制を整えたことによるDPC係数の上昇、入院延患者数・手術件数の増加、7月からの病床25床再稼働、救命救急入院料1などの加算を意識した病床管理などによるものと考えられます。また、医業費用については、特に薬品費、診療材料費などの材料費の増加が目立ちます。これは、患者数の増加や高額薬品を使用する治療を行ったことなどが影響していると考えています。</p> <p>今後も、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の再稼働により収益を確保するとともに、患者や市民から信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者の確保につなげるほか、価格交渉による材料費の抑制等を進めます。</p>
	上半期実績	93.8	96.7				
	年間実績	83.1	90.9				
H28実績：86.3	評価	C	B	—	—		

※医業収支比率= (医業収益) / (医業費用) × 100

b 経常収支比率 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
経常収支比率	目標値	92.7	95.8	96.5	98.0	健全経営を実施するため、経常収支比率100%以上を目指します。	<p>経常収支比率の改善には、収益の増加、費用の削減又は増加の抑制が必要です。平成30年度は、前年度上半期と比べ7.4ポイント改善し、黒字となりました。特に医業収益が増加しており、前年度と比べ約11億6,000万円増加しました。これは、質の高い医療体制を整えたことによるDPC係数の上昇、入院延患者数・手術件数の増加、7月からの病床25床再稼働、救命救急入院料1などの加算を意識した病床管理などによるものと考えられます。</p> <p>今後も、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の再稼働により収益を確保するとともに、患者や市民から信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者の確保につなげるほか、価格交渉による材料費の抑制等を進めます。</p>
	上半期実績	112.4	106.1				
	年間実績	93.5	100.9				
H28実績：93.9	評価	B	B	—	—		

※経常収支比率= { (医業収益) + (医業外収益) } / { (医業費用) + (医業外費用) } × 100

c 現金預金残高 単位：百万円

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
現年度現金預金額	目標値	427	387	▲182	147	健全経営を実施し、現金預金が不足しないよう努めます。	<p>平成30年度3月末時点の累計現金預金額は、前年度末時点と比べ約2億9,000万円増となりました。増加額は、前年度と比べると減っていますが、これは、3月に完了した工事に係る企業債による借入金振り込まれましたが、支払は4月に行ったため平成29年度は年度末時点で一時的に現金預金額が増えており、その分が4月に減ったことが要因です。</p> <p>今後も、引き続き収益確保、経費削減により、健全経営に努めるとともに、常に資金状況を見据え、資金不足が生じないような的確な運営に努めます。</p>
	上半期実績	225	24				
	年間実績	500	290				
H28実績：81	評価	B	C	—	—		
累計現金預金額	目標値	723	1,110	928	1,075		
	上半期実績	1,048※1	1,347※1				
	年間実績	1,324※2	1,614※2				
H29.3末実績：824	評価	S	A	—	—		

※1：各年度9月30日時点

※2：各年度3月31日時点

(イ) 経費削減に係るもの

評価 B

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

「薬品費対医業収益比率」及び「診療材料費対医業収益比率」は前年度と比べ増加していますが、患者数の増加、高額薬品を使用する治療の実施、手術件数の増加などにより薬品費や診療材料費が増加したことによるものであり、同時に医業収益も増加しています。「職員給与費対医業収益比率」は、前年度と比べ改善しています。麻酔科臨時医師の増加などにより職員給与費が増加したものの、医業収益の増加が上回ったためです。また、「後発医薬品の使用割合」は、引き続き高い水準を維持しています。  
今後も診療領域や運用病床数の拡大のために必要な人員確保は行うものの、勤務体制の見直しや時間外勤務の抑制などにより、効率の良い働き方を構築し、最大の成果を上げることが必要です。また、価格交渉などにより経費削減に努めるとともに、収益の確保を進めることで比率の改善に努めます。

a 薬品費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
薬品費 対医業収益比率	目標値	10.8	11.5	11.5	11.5	医業収益の増加と薬品購入費の抑制に努めます。	薬品の価格交渉を進めたものの、患者数の増加や高額薬品を使用する治療を行ったため、平成30年度の薬品費は、前年度と比べ約1億6,700万円増加しました。医業収益も増加しているものの薬品費の増加率が上回ったことから、薬品費対医業収益比率は、前年度と比べ0.5ポイント増加しましたが、目標を達成することができました。 今後も、引き続き薬品の価格交渉を進めるとともに、医業収益の更なる増加を図り、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2	11.8					
	年間実績	9.8	10.3					
H28実績：10.3		評価	B	B	-	-		

※薬品費対医業収益比率=（薬品費）/（医業収益）×100

b 診療材料費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
診療材料費 対医業収益比率	目標値	10.8	12.4	12.4	12.4	医業収益の増加と診療材料費の抑制に努めます。	平成30年度の診療材料費は、手術件数の増加などにより、前年度と比べ約1億7,600万円増加しました。医業収益が増加しているものの、診療材料費の増加率が上回ったことから、診療材料費対医業収益比率は、前年度と比べ0.5ポイント増加しましたが、目標を達成することができました。 今後も、引き続き診療材料の価格交渉を進めるとともに、医業収益の更なる増加を図り、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2	11.5					
	年間実績	10.1	10.6					
H28実績：10.6		評価	B	B	-	-		

※診療材料費対医業収益比率=（診療材料費）/（医業収益）×100

c 職員給与費対医業収益比率 単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
職員給与費 対医業収益比率	目標値	64.5	57.9	57.4	55.4	医業収益の増加と給与費の抑制に努め、比率を下げます。	平成30年度は、前年度と比べ給与費が約2億2,300万円増加しましたが、医業収益の増加率が上回ったことから、職員給与費対医業収益比率は4.6ポイント改善しました。 給与費の増加は、特に賃金の増加が大きく、麻酔科の正規職員減少に伴い、正規職員に比べ高額となる臨時医師を確保していることによる影響が大きいと考えられます。 今後も、常勤医師の確保等による診療領域の拡大や常勤看護師の確保を進め、病床を効率よく稼働することで収益を確保するとともに、業務の見直し等による時間外勤務の抑制や非常勤医師の勤務体制の見直し等を進めることなどにより、目標達成を目指します。	
	上半期実績	54.8	51.8					
	年間実績	65.8	61.2					
H28実績：65.8		評価	C	C	-	-		

※職員給与費対医業収益比率=（給与費）/（医業収益）×100

d 後発医薬品の使用割合（使用量ベースによる割合） 単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
後発医薬品の 使用割合	目標値	84	85	86	87	可能な限り後発医薬品への切替えを行い、薬品購入費の抑制と後発医薬品係数の増加に努めます。	継続的に後発医薬品への切替を進めており、後発医薬品の使用割合は高い水準を維持しています。 今後も、引き続き取組を進めます。	
	上半期実績	-	94.1					
	年間実績	91.5	94.3					
H28実績：85.5		評価	B	B	-	-		

※後発医薬品の使用割合=（後発医薬品）/ {（後発医薬品のある先発医薬品）+（後発医薬品）} ×100

(ウ) 収入確保に係るもの

評価 C

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
入院について、「1日当たり平均入院患者数」では、7月からの病床25床稼働などにより増加しており、入院診療単価も増加しています。病床利用率を見ると高機能な病床である救急病床で高い占床率となり、重症患者の入院が増えているほか、7月から25床稼働した一般病床でも高い占床率を維持しており、患者を確保することができています。外来については、「1日当たり平均外来患者数」が減少している一方で「外来診療単価」は増加したことから、外来収益は前年度と比べ2億円以上増加し、高度・急性期病院として重症患者を中心とした効率的な診療ができていると考えます。						
入院、外来共に当院が目指す方向に沿った成果が出てきていますが、特に入院については、今後も医師の確保等による診療領域の拡大や、看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、患者や市民から信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者の確保につなげ、目標達成を目指します。						

a 1日当たり平均入院患者数 単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成30年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	351	351	350	370	入院ベッドの有効利用に努め、病床利用率の向上を図ります。	平成30年度の1日当たり平均入院患者数は、前年度と比べ22.4人増加しましたが、目標をわずかに下回りました。入院患者の増加は、手術件数の増加や7月からの病床25床稼働などによるものと考えられます。 今後も、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、患者や市民から信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者の確保につなげ、目標達成を目指します。 診療科別では、特に医師数が減少した脳神経外科、正規職員が不在となった耳鼻咽喉科などで患者数が減少した一方で、医師数が増加した内科、神経内科や脊椎専門の医師が確保できた整形外科などで患者数の増加が見られました。	
	上半期実績	325.9	345.5					
	年間実績	327.7	350.1					
H28実績：353.4	評価	C	C	-	-			

b 1日当たり平均外来患者数 単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					平成30年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	915	887	852	824	高度急性期及び急性期を担い入院中心の診療を行うため、逆紹介を推進し、外来患者数の抑制を行います。	高度急性期及び急性期を担う病院として、外来患者については、救急・紹介の患者を中心に診療し、急性期の治療を終えた患者については、病状に適した医療機関に紹介することを徹底しています。平成30年度の実績では、医師の増加や高額薬品を使用する治療を行った呼吸器内科、外来化学療法を積極的に行った乳腺外科など一部の診療科で外来患者が増加しましたが、逆紹介の推進等により、前年度と比べ1日当たり平均外来患者数は減少しており、全体では19.6人の減少となりました。	
	上半期実績	877.4	836.3					
	年間実績	865.8	846.2					
H28実績：924.3	評価	B	B	-	-			

c 入院診療単価 単位：円

【関係部門】		診療部門					平成30年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	63,100	67,050	68,750	69,690	高度な医療を担う病院として、診療密度の高い診療を行うことで単価の上昇を図ります。	平成30年度の入院診療単価は、前年度と比べ3,484円増加しました。質の高い医療体制を整えたことによるDPC係数の上昇、手術件数の増加、救急搬送患者受入数及び救急車搬送患者入院患者数の増加等に伴う重症患者の確保による救命救急入院料1の算定や救命救急入院料1などの加算を意識した病床管理などが要因と考えられます。診療科別で見ても形成外科、耳鼻咽喉科などの一部の診療科を除き、入院診療単価は前年度より増加しています。 今後も、医師の確保等による診療領域の拡大、地域医療連携推進のほか、患者や市民からの信頼を得て「選ばれる病院」となることで、重症患者を確保してまいります。	
	上半期実績	62,136	65,208					
	年間実績	63,469	66,953					
H28実績：56,879	評価	B	C	-	-			

d 外来診療単価 単位：円

【関係部門】		診療部門					平成30年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	12,130	12,460	12,840	13,250	救急と紹介を中心とした外来診療を行い、病状が安定した患者さんは逆紹介を行います。	地域医療連携を推進する中で、開業医との役割分担など機能分化が進み、高度急性期及び急性期を担う病院として重症患者を中心とした診療を行ったことや医師の増加、高額薬品を使用する治療、外来化学療法を積極的に行ったため外来収益が増加し、平成30年度の外來診療単価は、前年度と比べ1,000円以上増加しました。今後も、引き続き地域医療連携を推進してまいります。	
	上半期実績	12,162	13,811					
	年間実績	13,031	14,341					
H28実績：11,969	評価	B	B	-	-			

e 医師及び看護師1人当たり入院診療収入 単位：千円

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成30年度	
区分／年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	86,040	89,520	90,160	94,100	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	平成30年度は、常勤医師数、常勤看護師数ともに増加していますが、質の高い医療体制を整えたことによるDPC係数の上昇、入院延患者数・手術件数の増加、7月からの病床25床稼働、救命救急入院料1などの加算を意識した病床管理などにより、入院収益が増加したことで医師及び看護師1人当たりの入院診療収入が増加しました。 今後も、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、患者や市民からの信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者の確保につなげます。	
	上半期実績	40,959	43,094					
	年間実績	85,448	89,911					
H28実績：80,169	評価	C	B	-	-			
看護師	目標値	22,470	23,230	23,250	24,130	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	平成30年度は、常勤医師数、常勤看護師数ともに増加していますが、質の高い医療体制を整えたことによるDPC係数の上昇、入院延患者数・手術件数の増加、7月からの病床25床稼働、救命救急入院料1などの加算を意識した病床管理などにより、入院収益が増加したことで医師及び看護師1人当たりの入院診療収入が増加しました。 今後も、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、患者や市民からの信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者の確保につなげます。	
	上半期実績	9,920	10,645					
	年間実績	20,461	22,247					
H28実績：21,094	評価	C	C	-	-			

f 医師及び看護師1人当たり外来診療収入

単位：千円

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	28,940	28,100	27,340	26,630	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	高度急性期及び急性期を担う病院として、外来患者については、救急・紹介の患者を中心に診療することとしており、地域医療連携の推進や開業医との役割分担を進める一方で、医師の増加、高額薬品を使用する治療や外来化学療法を積極的に行ったため外来収益が増加しました。今後も、高度急性期及び急性期病院として求められる機能を強化します。	
	上半期実績	14,622	14,973					
	年間実績	30,988	31,123					
H28実績：29,388	評価	C	C	—	—			
看護師	目標値	7,560	7,290	7,050	6,830			
	上半期実績	3,543	3,699					
	年間実績	7,421	7,700					
H28実績：7,732	評価	B	C	—	—			

g 病床利用率

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門					平成30年度	
区分/年度		H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	85.6	90.0	90.0	90.2	入院ベッドの有効利用に努め、病床利用率の向上を図ります。	平成30年度の病床利用率は、小児科病床、NICU以外で前年度と比べ増加しており、一般病床、ICU/CCU、救急病床では目標値を上回りました。特に一般病床は7月に病床25床を再稼働し、稼働病床数が増えています。前年度を上回る稼働率となりました。これは、手術の増加などによる患者の確保のほか、適切な病床管理によるものと考えています。また、救急病床についても前年度と比べ8.5ポイント稼働率が上昇しましたが、「断らない救急」の実践により、救急搬送患者受入数が過去最高となり、救急搬送からの入院患者が増加したことが要因であると考えています。一方で、小児科病床、NICUは前年度実績を下回り、目標値を達成することができませんでしたが、これは、院内出生者数の減少などの影響が考えられます。これらの病床は、公立病院として政策的医療である小児・周産期医療を担う立場から維持する必要がありますが、患者を確保し、稼働率を上げるための取組も必要です。今後も、医師の確保等による診療領域の拡大のほか、患者や市民の信頼を得て「選ばれる病院」となることで、患者の確保につなげてまいります。	
	上半期実績	91.5	92.5					
	年間実績	91.4	92.2					
	評価	B	B	—	—			
	参考1	79.9	85.4	—	—			
参考2	83.9	84.8	—	—				
一般病床	目標値	88.3	94.0	94.0	94.0			—
	上半期実績	96.7	97.9					
	年間実績	96.9	97.3					
	評価	B	B	—	—			
産科病床	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	—		
	上半期実績	86.3	85.8					
	年間実績	85.7	85.8					
	評価	C	C	—	—			
小児科病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—		
	上半期実績	76.3	62.8					
	年間実績	68.8	62.7					
	評価	C	C	—	—			
ICU/CCU (集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—		
	上半期実績	65.7	67.9					
	年間実績	68.0	70.8					
	評価	C	B	—	—			
NICU (新生児特定 集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—		
	上半期実績	51.2	45.7					
	年間実績	46.0	41.0					
	評価	D	D	—	—			
GCU (継続保育治 療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—		
	上半期実績	54.7	57.0					
	年間実績	51.7	51.9					
	評価	C	C	—	—			
救急病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	—		
	上半期実績	73.7	83.1					
	年間実績	77.6	86.1					
	評価	B	A	—	—			
参考1	77.6	86.1	—	—	—			

※病床利用率は、(入院延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数) × 100で算出していますが、参考1「(入院延患者数) / (許可病床ベースでの延病床数) × 100」、参考2「(退院患者を除外した延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数) × 100」を記載しています。

h 平均在院日数

単位：日

【関係部門】	診療部門、看護部門、地域医療支援部門					平成30年度	
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
平均在院日数	目標値	10.1	9.9	9.7	9.5	高度急性期及び急性期を担う病院として、地域医療連携を推進し、病状が安定した患者さんは後方連携を積極的にいき、在院日数の短縮を図ります。	効率的な治療、計画的な退院支援、地域医療連携の取組などを行っているものの、平成30年度の平均在院日数は、前年度と比べ0.1日長くなりました。今後も、高度急性期及び急性期を担う病院として、急性期治療を終えた患者については、病状に適した医療機関への紹介を徹底することで、平均在院日数の短縮に努めます。
	上半期実績	10.0	10.3				
	年間実績	10.1	10.2				
H28実績：10.5	評価	B	C	—	—		

(エ) 経営の安定化に係るもの

評価	B
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）	
<p>当院は、地域や立地などの点から、医療スタッフの確保は非常に難しい面がありますが、当院の魅力や強みを積極的にPRするほか、丁寧なフォローをすることで医療スタッフを確実に確保し、診療領域の拡大などにより、経営安定化を目指しています。医師については、様々な取組を行っていますが、十分な人数を確保できていません。また、看護師についても在籍者数は増えていますが、退職者数なども見極めながら引き続き質の高い看護師を確保していく必要があります。今後も良質な医療を継続して提供し、収益を増加させるために必要な人材は、タイミングを見極めながら確保していく必要があります。</p>	

a 医師数

単位：人

【関係部門】	診療部門、事務部門					平成30年度	
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
常勤医師数	目標値	94	96	98	100	医療の質の向上と医業収益を確保するため、必要な医師数を確保します。	安定的かつ効率的に医療を提供し、収益を上げるためには、常勤医の確保が必要です。平成30年度は前年度より4人増加したものの、目標には達しませんでした。医師確保のための活動により、医師数が少ない診療科、欠員が生じている診療科を中心に診療体制の充実を図るとともに、診療領域の拡大を目指します。
	実績	91※ (90※)	95※ (94※)				
	H28.4.1：92	評価	C	C	—		

※各年度4月1日時点。()内は、退職者等を除く定数条例上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

b 看護師数

単位：人

【関係部門】	看護部門、事務部門					平成30年度	
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
常勤看護師数	目標値	360	370	380	390	医療の質の向上と医業収益を確保するため、必要な看護師数を確保します。	平成30年度は、4月1日付で35人採用し、前年度より9人増加しました。また、5月以降は12人の採用でした。看護学生の実習を積極的に受け入れるとともに、県内外の学校訪問の強化や合同就職説明会への参加のほか、平成29年度後半からは、新卒と既卒の別に病院見学を実施し、それぞれの要望に応じた説明を行うなどきめ細かな対応を行っており、地元以外の看護学校や大学出身者などこれまでより広い範囲から採用できるようになっています。今後も、看護師の確保・定着に向けて積極的に取り組んでまいります。
	実績	378※ (362※)	387※ (365※)				
	H28.4.1：354	評価	B	B	—		

※各年度4月1日時点。()内は、退職者等を除く定数条例上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

IV 職員の学習と成長の視点

評価	C
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）	
<p>職員の教育・育成は、当院の基本方針にも位置付けられる重要な要素です。今後も教育の場の確保や、教育を受けることができる環境を整えることで、引き続き職員のやる気を引き出すとともに、能力向上を図ります。成長の機会が確保され、成長が実感できる病院とし、職員にとっての魅力向上を図ることで、職員育成とともに、質の高い職員の確保・定着にもつながり、質の高い医療の提供が可能になると考えています。</p>	

(ア) 職員向け院内研修会の1人当たりの参加数

単位：回

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成30年度	
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	目標値	5	5	6	6	院内では、様々な職員向けの研修会を開催し、職員の資質向上に向けた学習の場を提供しております。平成30年度は、前年度と比べると職員1人当たりの参加数は減少しましたが、今後も、職員の学習意欲を醸成し、参加しやすい環境を整えることで、病院の質の向上につなげていきます。	
	上半期実績	2.6	2.1				
	年間実績	5.4	4.2				
	評価	B	C	—	—		

(イ) 有資格者数

単位：人

【関係部門】	診療部門、看護部門					平成30年度	
区分／年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）	
基本領域専門医数	目標値	53	54	55	56	高度急性期及び急性期を担う病院として、医療の質を向上させるため、質の高い医療職を確保します。	平成30年度も新たに認定を取得した職員がおり、職員の能力向上が図られています。今後も、引き続き職員がスキルアップできる環境を確保し、やる気のある医療職の下、質の高い医療の提供につなげていきたいと考えております。
	実績	54※	56※				
	評価	B	B	—	—		
認定看護師数	目標値	17	19	21	23		
	実績	14※	16※				
	評価	C	C	—	—		

※各年度10月1日時点。正規職員の人数。

V 社会貢献の視点

評価 A

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

平成30年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

公立病院として、救急医療、災害医療や人材育成、情報発信など様々な分野での社会貢献に積極的に取り組んでいます。  
今後も地域や社会のニーズを踏まえ、病院内に限らず広く社会全体に貢献することで、当院の存在価値を高めてまいります。

(ア) 社会貢献活動の実施数

単位：件・人

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	平成30年度				
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
救急ワークステーションでの 医師出動件数	目標値	150	150	150	150	公立病院として、社会貢献活動に取り組めます。  当院は災害拠点病院であり、また、救命救急センターの指定を受け、救急医療を担っていることから、社会に還元する活動を指標に設定しています。 平成30年度は、総合防災訓練やDMAT訓練などに参加したほか、災害時における病院の機能維持、救急隊の知識・技術の向上などに資する取組を行いました。 今後も、災害医療企画室が主導し、様々な訓練等を実施することで、公立病院として、災害拠点病院としての役割を果たしていきます。
	上半期実績	63	68			
	年間実績	157	150			
評価	B	B	—	—		
災害医療関係行事 数	目標値	10	10	10	10	
	上半期実績	6	6			
	年間実績	10	9			
H28実績：11	評価	B	C	—	—	
救急救命士 病院実習受入人数	目標値	55	55	55	55	
	上半期実績	27	35			
	年間実績	57	84			
H28実績：52	評価	B	S	—	—	

(イ) 学会及び論文研究発表件数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	平成30年度				
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）
診療部門	目標値	170	175	180	185	研究会において研究成果を発表することは、社会貢献や職員の能力向上のほか、病院の知名度向上にもつながります。平成30年度は、各部門で積極的に学会・論文 研究発表を行い、特に診療部門と看護部門では、目標を上回る発表を行いました。 今後も、様々な症例に対応し、それらの成果を社会に還元することで、社会全体の医療の質の向上に寄与したいと考えています。
	上半期実績	-	-			
	年間実績	191	220			
H28実績：178	評価	B	A	—	—	
看護部門	目標値	5	5	6	6	
	上半期実績	-	-			
	年間実績	4	10			
H28実績：8	評価	C	S	—	—	
その他	目標値	30	32	34	36	
	上半期実績	-	-			
	年間実績	19	19			
H28実績：22	評価	D	D	—	—	

## (ウ) 学生実習受入人数

単位：人

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門					平成30年度		
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）		
医師	目標値	17	18	19	20	<p>新たな医療職を育てる教育施設として、積極的に受け入れを行います。</p> <p>社会貢献の観点から、各部署とも人材育成や学生教育に協力し、積極的に学生を受け入れています。当院では、実習の受入れに当たり、個々の学生の習熟度に応じ、目標設定を行うなど、丁寧な対応を心がけている職種もあります。受入れが可能な範囲で積極的に受け入れを行っているため、職種によっては、前年度を上回る人数を受け入れました。</p> <p>今後も、引き続き人材育成に協力してまいります。</p>		
	上半期実績	9	—					
	年間実績	16	15					
	評価	C	C	—	—			
看護師・助産師	目標値	520	520	520	520			
	上半期実績	249	237					
	年間実績	446	466					
	評価	C	C	—	—			
H28実績：438	評価	C	C	—	—			
薬剤師	目標値	1	4	4	4			
	上半期実績	1	2					
	年間実績	1	2					
	評価	B	D	—	—			
H28実績：2	評価	B	D	—	—			
リハビリテーション技師	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	4	6					
	年間実績	6	8					
	評価	C	B	—	—			
H28実績：7	評価	C	B	—	—			
放射線技師	目標値	1	1	2	2			
	上半期実績	2	2					
	年間実績	2	2					
	評価	S	S	—	—			
H28実績：0	評価	S	S	—	—			
臨床工学技士	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	9	13					
	年間実績	9	13					
	評価	A	S	—	—			
H28実績：7	評価	A	S	—	—			
臨床検査技師	目標値	2	2	2	2			
	上半期実績	3	3					
	年間実績	3	3					
	評価	S	S	—	—			
H28実績：2	評価	S	S	—	—			
管理栄養士	目標値	8	10	10	10			
	上半期実績	2	2					
	年間実績	10	10					
	評価	A	B	—	—			
H28実績：6	評価	A	B	—	—			

## (エ) 講座及び講演数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					平成30年度		
区分/年度	H29	H30	H31	H32	H33~H37	評価・検証（部門の長）		
市民向け出張講座開催数	目標値	11	12	13	15	<p>地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。</p> <p>情報発信は、市民、患者、医療関係者に当院をPRし、認知度を高めるとともに、「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、市民の医療や健康に対する関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。</p> <p>平成30年1月から経営企画課に広報の専従職員を配置し、平成30年度は、院内での「市民健康講座」の積極的な実施、ホームページでの院内活動の発信、病院広報誌「Smile!」のレイアウト変更に伴う情報量の増加などに取り組みました。「市民健康講座」は、院内会議室で当院医師や管理栄養士などが講演を行うもので、平成30年度には9回開催し、前年度目標を達成することができなかった「市民向け院内講座」の回数増加につながっています。</p> <p>今後も、市の施策や病院の方針などを踏まえ、より戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことで患者、市民サービス向上に努め、信頼を高めるとともに、患者獲得につなげていきたいと考えています。</p>		
	上半期実績	-	11					
	年間実績	16	16					
	評価	A	A	—	—			
H28実績：13	評価	A	A	—	—			
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60			
	上半期実績	-	-					
	年間実績	33	42					
	評価	D	C	—	—			
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20			
	上半期実績	-	-					
	年間実績	19	25					
	評価	B	A	—	—			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45			
	上半期実績	-	-					
	年間実績	80	71					
	評価	S	S	—	—			